

# Weekly Report

ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO



創 立：1980年(昭和55年)1月10日  
 会 長：泉 憲一  
 幹 事：亀井 直人  
 クラブ委員長：山口 哲司  
 例 会 日：毎週木曜日PM12:30～  
 会 場：ヒルトン名古屋

事 務 局：460-0008  
 名古屋市中区栄1丁目3-3 ヒルトン名古屋910号  
 T E L：052-211-3803  
 F A X：052-211-2623  
 M A I L：2760\_nagoya@mizuho-rc.jp  
 U R L：http://www.mizuho-rc.jp/

## 第1633回例会

～ロータリー理解推進月間～  
 クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2014年1月30日(木) 雨 第29回

司 会：稲垣豊会場委員  
 斉 唱：「日も風も星も」  
 ビジター：名古屋南RC 岡田英彦さん  
 ゲ ス ト：星野一郎さん

### 会長挨拶

泉憲一会長

今日は、1月30日です。ついこの間まで正月の挨拶をしていたのに、もう1月が終わろうとしています。本日は立春についてお話します。立春は二十四節気の始まりの日です。暦で2月3日が節分、2月4日が立春です。本格的な春が待ち遠しい季節となりました。



日本文化は中国文化に決定的影響を受けてきましたが、その中国の史料における日本の記録で最も古いのは『三国志』のなかの記事です。このなかの「魏志倭人伝」に日本のことが初めて述べられています。そこに暦の問題にとって極めて重要な記載があります。「倭人と言われる日本人は暦についての知識がなく、ただ『春耕秋収』をもって1年を数えている」というのです。大地が暖かくなって植え付けを行うことから1年が始まり、秋の収穫をもって1年が終わるといふ農耕を中心にする考え方がなされ、農作物の周期的変化によって生活の区切りが行われていたようです。そして興味深いのは、現在のように年数を数える習慣がなかったというのです。新しい年は去年と同じ年が繰り返され、毎年同じように春が来て秋で終わるのです。人間の活動も去年と同様に繰り返されると考えます。人類の創生期においては、おそらく人々はこのように周期的な自然現象に従って時間を整理していたと思われる。こうした自然現象からくる季節感は今でもその名残があります。例えば、渡り鳥や魚の大群の到来が季節を教えてください。また、山に残る雪の形から春の到来を感じ取り、駒ヶ岳や白馬など、山には駒や馬の名前を持つものが多いのは、春になると山肌に馬の雪形が現れるからでした。桜が咲けば、稲作を始める前兆として受け止められました。春はものごとの始まりを表し、春を起点として日を数えていました。

そうした歳月を繰り返すうちに古代の人々が一番早く気づいた特別な日は、二至二分だったと思われる。二至は、最も昼間の短い冬至と長い夏至、二分は昼夜が半分になる春分と秋分です。東洋では四季の境目であり、隣り合う二至二分の中間にきます。これが立春、立夏、立秋、立冬の四立となります。一方、西洋では春は春分、夏は夏至、秋は秋分、冬は冬至からを四季の始点としました。ここに東洋と西洋の顕著な違いがあります。

四季の起こる原因は、地球の地軸が傾きながら太陽の周りを公転しているからです。太陽の光エネルギーは空気を透過してまず直接土に吸収され、地上1.5mの空気を暖めるまでに約1ヶ月半という長い

時間を要します。ですから、光は春らしくなって立春を告げても、まだ寒さの真っ最中ということになります。ここには、「陽極まってに陰転じ、陰極まって陽に転ず」という中国の思想が反映していると考えられます。最も厳しい寒さの峠を越えると一転して暖へと向かい、冬との決別を願い希望の兆しとして立春を位置づけたのです。

さらに、二十四節気は、気象や植物、動物、鳥、魚介、虫などの変化や動きに由来して考えられたものです。動植物たちは、直接光を吸収する大地に生活しているため私たち人間よりも早く春を体感することができます。春の光が日増しに強く地面を暖めると、冬眠していた蛙や蛇や熊が目覚めます。そして地中に根を下ろしている草木も同じように目覚め、水分を勢よく吸い上げ芽吹き準備を始めます。

その昔、1年の最初の日が立春で、その前日の節分は1年の最終日でした。ですから、節分の行事は大晦日と同じ性格をもった年迎えの行事だということができ、地方によっては「年取り」や「年越し」と呼ぶ習わしが今でも残っています。また、年賀状に「初春」「迎春」といふ挨拶の言葉を書くのは、立春を新年とした風習がそのまま伝えられているためです。

### 出席報告

渡辺喜代彦出席委員

会員62名 出席42名 (出席計算人数44名)

出席率 79.2%

1月22日は補填により 98.0%

### 幹事報告

堀慎治副幹事

- ・1月30日(木)13:40よりヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」にて第2回クラブ奉仕協議会を行います。
- ・次週2月6日(木)13:40よりヒルトン名古屋9階「ことぶきの間」にて第8回理事会を行います。

### ニコボックス

渡辺喜代彦ニコボックス委員

- ・誕生日にきれいなお花を頂き、誠にありがとうございました。  
野崎 洋二さん
- ・1月24日は誕生日でした。  
吉木 洋二さん
- ・ゴルフ同好会の皆様、先日は過分なお祝い、ありがとうございました。また、誕生日のすてきなお花もありがとうございました。  
山口 哲司さん
- ・家内の誕生日にお花、ありがとうございました。渡辺喜代彦さん
- ・新年会が続き、飲み過ぎ中です。鈴木 淑久さん
- ・本日、名札を忘れました。長瀬憲八郎さん
- ・先日の例会では、堀、鈴木両君に卓話をありがとうございました。又、地区新会員研修会に山口、佐治、田中、各位のご出席お疲れ様でした。役に立ちましたでしょうか？ 天野 正明さん
- ・山口君、先日は世話になりありがとうございました。また、おめでと

うございました。

湯澤 勇生さん

・次男の進路が決まりました。また先日のコンペでは皆様にお世話になりました。ありがとうございました。 田中 宏さん

・山口さん、いろいろお気づかいありがとうございました。

佐治 寛行さん

・高村さん、お世話になりました。山口さんおめでとうございました。

内田 久利さん

## 第4回クラブフォーラム

### 中間決算報告について：馬場将嘉会計

名古屋瑞穂RCの、2013年7月1日から2013年12月31日までの中間決算報告を行います。時間の関係から実績のみの報告をさせて頂き、変わった点のみ説明させて頂きます。

### 収入の部

当期収入合計17,893,026円、前年度繰り越し収支差額8,461,278円、収入合計26,354,304円です。

### 支出の部 その1

RI関係と致しまして、174,240円、全国関係と致しまして913,910円。ロータリー財団寄付、米山記念奨学会寄付は一括でお支払いになった方がいらっしゃる為△となっています。地区関係として、2,000,200円。小計が3,088,350円となっています。

### 支出の部 その2

例会費小計、8,078,435円。委員会活動費が小計352,607円。親睦活動費が△になっていますが、予算より多い分は例会費以下で賄えているからです。こちらは、春の家族会で消化される予定です。社会奉仕関係の△は、地区補助金が入金されていた分です。

### 支出の部 その3

管理費小計5,116,832円。2014年から2015年のガバナー活動資金、3,989,899円。予備費0円。当期支出合計20,626,123円。当期収支差額は、△2,733,097円。次期繰越収支差額5,728,181円。

### ニコボックス収支計算書

収入は、当期収入合計1,470,836円。前期繰越収支差額10,830,294円。収支合計12,301,130円。支出は、当期支出合計2,974,775円。当期収支差額は、△1,503,939円。次期繰越収支差額9,326,355円。

### 貸借対照表

資産の部15,337,864円。負債の部15,337,864円。以上報告申し上げます。

### 監査報告：稲垣豊監査

ただいまの決算の監査を1月15日に行いました。その結果、平成25年7月1日から平成25年12月31日までの収支、並びに平成25年12月31日現在の貸借対照表の処理は適切に行われていると確認しました。以上ご報告申し上げます。

### 来年度の組織について：堀慎治副幹事

前回役員および理事についてはご承認いただいておりますので、委員会構成のみ発表させていただきます。時間の関係上委員長、副委員長のみ申し上げます。

## 国際ロータリーニュース

### 自転車レースでポリオ撲滅



この5年間、米国アリゾナ州ツーソン周辺のロータリー会員は、毎年111マイル(約178km)の自転車レース\*に参加して、ポリオ撲滅活動を支援してきました。2013年は、70名がチームとなってレースに挑み、応援してくれた人たちから73万ドル(約7,300万円)の募金を集めることができました。さらに、ビル&メリンダ・ゲイツ財団とのパートナーシップ\*\*を通じた資金上乗せにより、ポリオ撲滅活動への寄付は約210万ドルに増加されます。

「支援金はすべてポリオ撲滅活動に生かされ、数多くの子もたちにポリオ予防接種を提供することができた」と話すのは、この支援活動「ポリオ撲滅自転車レース」でリーダー役を務めたゲイリー・ハーシュさん(ツーソン・ロータリークラブ会員)です。

この活動は、ツーソンで恒例となっている自転車ツアー(EI Tour de Tucson)に参加するかたちで行われました。今年も、国際ロータリーのジョン・ヒューコ事務総長が参加し、ポリオ撲滅活動に賛同する多くの方々から支援が寄せられました。約24万ドルを集めた2012年と比べ、今年はさらに高額の支援金を集めることができました。

また、自転車レース主催者が、ジョン・ヒューコ事務総長に特別賞(2013 Dedication Award)を授与。事務総長は、ロータリーを代表して、ポリオ撲滅活動の支援者に対する感謝を述べました。

\* 欧米では、特定の目的をもってマラソンや自転車レースなどの過酷なレースに挑戦し、応援してくれる人たちから支援金を集めるという募金活動が盛んに行われています。

\*\* 2018年まで、ロータリーがポリオ撲滅活動に寄せる寄付に、ビル&メリンダ・ゲイツ財団が2倍の資金を上乗せします(上乗せは、各年、ロータリーからの寄付3,500万ドルを上限として行われます)。

### 「私は一人の女の子」マララさんの思い

美しく汚れなき理想郷、タリバーンの支配下へ

ここは、パキスタン北部、カシミール地方とカイバル峠の間にあるスワート渓谷。かつては、行政長官ミアングル・アブドゥル・ハック・ジェハンゼブの管理下に置かれ、豊かさや平和に満ちた生活が営まれていました。ジェハンゼブは近代化を進め、男女両方に開かれた学校を建設、自動車では行くことができない遠隔地にも行政の手を届けました。

「雲を突き抜けるように山がそびえる、美しく汚れなき理想郷。人びとは、この地をシャングリラ(伝説の理想郷)と呼びました」

そう振り返るのは、ジェハンゼブの孫娘であるゼブ・ジラニさんです。地元の人びとから、今でも「プリンセス・ゼブ」と呼ばれます。小さい頃に緑色に輝く石で遊んだ思い出を偲ぶジラニさん、かつては家族が所有する鉱山でエメラルドが採れたそうです。



しかし、1969年、スワート地方の主権はパキスタン政府に渡り、同地方は下降線をたどることになります。さらに、2008年にはタリバーン政権が台頭し、その後の2年間、人びとは厳格なイスラム法によって支配される生活を強いられました。政治的に敵とみなされた者は拘束され、斬首刑や鞭打ちの刑に処された人もいました。公開処刑が行われ、女性への暴力が横行し、学校も破壊されました。

ジラニさんは1979年、生活の場を米国へと移しました。その後も年に1度帰国していますが、生まれ故郷が侵略される様を目にするのはとても辛いと話します。エメラルド鉱山から得た財産もなくなってしまいました。しかし彼女は、一から集めたお金で学校を建設し、スワートからの難民のためにシェルターと薬品を提供、さらに、スワート地方に初のロータリークラブを創設しました。

## 教育への思い

クラブへの入会を呼びかけた最初の人たちの中に、教育者で活動家でもあるジアウディン・ユスフザイさんという人がいました。彼の娘は、今や世界のひととなった、マララ・ユスフザイさんです。15歳のとき、既に優等生として一目置かれる存在だったマララさん。青い制服を着て、科学、数学、イスラム教育、英語、ウルドゥ語の授業を受ける一方で、パシュトゥ語の詩から冒険物語にいたる幅広い書物を読んでいました。ウルドゥ語で書かれた彼女のブログには、パキスタン軍とタリバーンの争いや、上空で大きな音をあげる武装ヘリコプターなど、タリバーンの影響下に置かれた生活に関する記述がありました。また、不足する書物、自分の夢、お気に入りのピンクの服、そして教育を受けられない日がある可能性などについて、彼女の思いが刻々と綴られていました。ある日のブログには、次のようなメッセージが書かれています。

「タリバーンが、女子の学校教育を禁止する法令を出しました」  
「私は教育を受けます。私たちは全世界にお願いします。私たちの学校を、スワートの地を守ってください」

ブログでは、グル・マカイというパキスタン民謡の英雄の名を使用し、本名を名乗ることはできませんでした。

マララさんの父親も、スワートの伝統を守ることに力を入れていました。パキスタン政府が同地域での統制を部分的に取り戻した後の2010年、彼が所属する ミンゴラ・スワート・ロータリークラブ主催の音楽イベントの準備に加わっていました。タリバーンの台頭後では初めての音楽行事だったため、ロータリアンは皆、イベントの開催を強く誇りに感じていました。「まだタリバーンの影響下にあったので、開催には大きな勇気が必要とされた」と、彼は振り返ります。「脅しや暗殺が頻繁に起きていたため、何が起こるか分かりませんでした。でも、結果的に素晴らしいイベントにすることができました」

## マララさんを襲った悲劇

2012年10月のある日、ジアウディン・ユスフザイさんは、総勢300名以上の校長・教師が集まった全人教育の推進キャンペーンに参加していました。ロータリー仲間のアーマドさんに続いて演壇に上がったとき、一本の電話が入りました。

「私はアーマドさんに電話を取ってもらいました。すると彼が私の耳元で、娘が通う学校のバスが襲撃されたことを告げました。目の前が真っ暗になりました。マララが標的とされたにちがいない

と感じたからです。場内には私を呼ぶアナウンスが流れ、額には汗が流れていました。6分間の演説を終えるとアーマドさんがやってきて、病院に直行するよう私に言ったのです」

被害者は、マララさんでした。スクールバスで帰宅中、銃をもった男が車中に押し入り、どの生徒がマララさんかを教えないと全員を殺すと脅したのです。恐怖に駆られた生徒たちは、マララさんの方を見つめるほかありませんでした。男は銃口をマララさんの頭に向け、至近距離から発砲しました。

事件から6日後、戦争被害者の治療を専門とする英国パーミンガムの病院に搬送されたマララさんは、そこで昏睡状態から目覚めました。

「どこの国に私はいるのですか？」とマララさんは尋ねたそうです。謙虚に振る舞いつつ、彼女は毅然として述べました。「タリバーンは私を殺そうと思ったことでしょう。でも、そうはさせません」父親には「安心して」と声をかけ、ジラニさんには「人びとを助けようとする私のことを、きっと神様が守ってくれる」と述べました。

## 希望を新たに

2013年3月、マララさんは、英国で2番目のパキスタン人口を抱えるパーミンガム市内の学校に通学し始めしました。グリーンセーターに身を包み、ピンクのカバンを背負ったマララさんは、頭の中に埋め込まれたチタン製プレートと、補聴器材が左耳に付いていることを除けば、普通の女の子と何ら変わりはありません。「私は一人の女の子に過ぎない」と彼女は言います。英国での勉強を開始したマララさんは、最初に、すべての子どもの教育を受ける権利を訴える署名活動を行いました。

父親は、ゴードン・ブラウン国連世界教育特使(元英国首相)の諮問役となりました。マララさんは、世界中の人が知る存在となりましたが、心の中には常に、故郷に再び繁栄の日が訪れることへの希望が宿っています。

ジラニさんは、スワート地方への物資提供を通じて、地道な支援活動を続けています。「マララさんに起こったことは本当に恐ろしいことです。しかし、これによって世界が彼女に耳を傾けることになりました。きっと、彼女の目標を支える大きな力となるでしょう。いつの日か故郷へと戻り、私たちの活動が生み出した変化を知ってもらえたらいいなと感じています」

故郷に変化をもたらすこと、これはマララさんにとっても同じ願いです。彼女の父親は、今回の事件を振り返りながら、いつか故郷に帰ることを望んでいます。

「私たちの故郷、スワート渓谷に帰る日のことを夢見ています。そしたら、マララにもロータリーに参加してもらいます」

## 例会のご案内

- 今週の卓話 2月6日(木)  
卓話講師：地区国際奉仕委員会副委員長  
鈴木吉男さん  
テ－マ：世界理解月間によせて
- 次週の行事 2月13日(木)  
卓話講師：(株)デイリーファーム代表取締役  
市田真新さん  
テ－マ：私の役割(玉子を通して)
- 次々週卓話 2月20日(木)  
卓話講師：小原和紙工芸作家  
山内章平さん  
テ－マ：小原和紙工芸伝承とは

## 2014～2015年度クラブ役員理事及び委員会構成表

会 長	岩田 修司	役 員	ク ラ ブ 奉 仕 委 員 長	馬 場 將 嘉	理 事
副 会 長	内 田 久 利	役 員	職 業 奉 仕 委 員 長	鶴 田 浩	理 事
会 長 エ レ ク ト	伊 藤 豪	役 員	社 会 奉 仕 委 員 長	近 藤 茂 弘	理 事
直 前 会 長	泉 憲 一	役 員	国 際 奉 仕 委 員 長	湯 澤 信 雄	理 事
幹 事	堀 慎 治	役 員	青 少 年 奉 仕 委 員 長	大 嶽 達 郎	理 事
会 計	平 野 好 道	役 員	会 員 増 強 及 び 維 持 委 員 長	亀 井 直 人	理 事
S ・ A ・ A	松 波 恒 彦	役 員	親 睦 活 動 委 員 長	山 口 哲 司	理 事
副 幹 事	梅 村 昌 孝		R 情 報 ・ 研 修 委 員 長	天 野 正 明	理 事
			会 場 委 員 長	関 谷 俊 征	理 事
			R 財 団 委 員 長	加 納 裕	理 事
			長 期 ビ ジ ョ ン 委 員 長	本 多 清 治	理 事

奉 仕 区 分	委 員 会 名	委 員 長	副 委 員 長	委 員
ク ラ ブ 奉 仕	ク ラ ブ 奉 仕	馬 場 將 嘉	亀 井 直 人	山 本 英 雄 湯 澤 勇 生 山 口 哲 司 高 木 元 明 天 野 正 明 関 谷 俊 征
	出 席 ニコボックス	山 本 英 雄	稲 垣 豊	内 田 久 利 梅 村 昌 孝 田 中 宏 酒 井 俊 光
	会 員 増 強 及 び 維 持 会 員 選 考 職 業 分 類	亀 井 直 人 ①	平 野 好 道 ②	内 田 久 利 ① 堀 慎 治 ① 鈴 木 淑 久 ① 田 中 宏 ① 近 藤 茂 弘 ③ 山 口 哲 司 ① 広 瀬 弘 幸 ① 川 本 昌 市 ① 関 谷 俊 征 ② 佐 治 寛 行 ① 酒 井 俊 光 ①
	ク ラ ブ 広 報	湯 澤 勇 生	鈴 木 健 司	松 井 文 一 郎 広 瀬 弘 幸
	親 睦 活 動 (国内友好小委員会選任)	山 口 哲 司	鈴 木 淑 久 鈴 木 健 司 ②	吉 木 洋 二 宗 宮 信 賢 川 本 昌 市 酒 井 俊 光
	プ ロ グ ラ ム	高 木 元 明	松 井 善 則	江 口 金 満 越 原 一 郎
	R 情 報 ・ 研 修	天 野 正 明 ③	市 岡 正 蔵 ③	岡 村 達 人 ④ 長 瀬 憲 八 郎 ③ 平 野 哲 始 郎 ②
	会 場	関 谷 俊 征	大 嶽 達 郎	渡 辺 喜 代 彦 川 本 昌 市 田 中 宏 鈴 木 淑 久 鈴 木 健 司 佐 治 寛 行
職 業 奉 仕	職 業 奉 仕	鶴 田 浩	八 木 沢 幹 夫	岩 田 吉 廣 大 川 嘉 成 稲 葉 徹
社 会 奉 仕	社 会 奉 仕 環 境 保 全	近 藤 茂 弘	田 中 英 雄	山 田 鎮 浩 落 合 諭
青 少 年 奉 仕	青 少 年 奉 仕 口 ー タ ー ア ク ト	大 嶽 達 郎	長 坂 邦 雄	佐 藤 善 乙 高 木 勝 近 藤 茂 弘
国 際 奉 仕	国 際 奉 仕	湯 澤 信 雄	市 岡 正 蔵 (延平班長)	野 崎 洋 二 岩 本 成 郎
	R 財 団	加 納 裕	伊 藤 豪	高 村 博 三 田 中 隆 義
	米 山 奨 学	田 中 政 雄	西 本 哲	森 恒 夫
	長 期 ビ ジ ョ ン	本 多 清 治	鈴 木 圓 三	小 串 和 夫 高 須 洋 志 泉 憲 一 松 波 恒 彦

<b>第2760地区 出 向 者</b>	近 藤 雄 亮 ② (地区大会企画委員長、地区諮問) ① (立法案審議) 稲 葉 徹 ② (社会奉仕) 高 須 洋 志 ② (地区大会企画) ① (立法案審議)
--------------------------	--

○内の数字は委員就任年数